



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 1 5 日 (日)

発行 館長 加藤 智 一

カード集めのルーツはこれか!!

山形県産業科学館では、現在、「株式会社やまがた新電力」様より 4 種類の「発電所カード」をお預かりし、2 階の発電コーナーに設置し、希望する方に自由にお持ち帰りいただけるシステムになっております。この「発電所カード」は、今年の 5 月 3 0 日にお預かりして以来、今日まで約 2, 4 0 0 枚お持ち帰りいただいております。なぜこんなに人気があるの? もしやと思い、メルカリにアクセス。なんと、山形県のものはまだありませんでしたが、他県で発行されている「発電所カード」が出品されているではありませんか。価格は一枚数十円からセットで数千円まで様々。売れるの? と思ったのと同時に、集めている方々が相当数いるということに驚きました。そういえば同じような物に「ダムカード」という物もありましたね。科学館としては、無料の施設でありますので、売り物を置くわけにはいきませんが、今後「発電所カード」にどれだけの価値が付くのか、静観するしかありません。場合によっては、撤去する日が来るかもしれない。



さて話は「なぜカード集めをするのか」というところに戻りますが、私、発見しました。カード集めのルーツともいえる映像を。それは、奈良薬師寺の「散華 (さんげ)」。薬師寺 加藤朝胤 管主 によると、散華とは、勤行の際、薬師三尊様に蓮形の花弁を撒く作法であり、花を佛様に供養し、徳を褒め称えるためのものなのだとか。清らかな世界、悟りの世界は、天から花が舞い降りるといわれており、佛様や菩薩様が衆生を讃嘆するため、天より花を降

らせたという故事に因んでいるのだそうです。勤行の初めに散華を行うのは、花の芳香によって悪い鬼神などを退却させ、道場を清め佛様や菩薩様を迎えるためとされています。本来は蓮の花弁をはじめ生花が使われていましたが、四季を通して蓮や生花がある訳ではありませんので、蓮の形を模った色紙で代用することとなったとか。つまり、蓮の花弁形の紙のカードです。今では、里中満智子、やなせたかし、赤塚不二夫といった、名のある漫画家先生の作品もあり、かなりの種類をお参りの記念として買い求めることが可能となっているそうです。薬師寺だけでなく法隆寺でも、結構たくさん発行しているのですが、ごく一部の人に記念品として渡しているケースはあるものの、売ったりはしていないので一般的には知られていません。さらに東大寺もかなり昔から発行しており、こちらはお参りの記念として買い求めることが可能となっています。では、いつ頃から散華はあるのか。カード発行のルーツですね。正倉院に緑金箋という蓮弁状の色紙が残っているようで、おそらく散華に用いられたものと推測されており、1200 年から 1300 年前のものだとか。時代的に言うと、奈良時代或いは平安時代の初めころでしょうか。そんな前からカード集めしていた者がいたのでしょうか。ここまで来ると、カード集めはもはや子どもの趣味の領域を大きく逸脱し、伝統に則った、由緒正しい高尚な趣味? といっても過言ではありませんね。

初めにポケモンが流行ったときの子どもたちは、今や立派に 3 0 代? いかがでしょう、散華のデザインにポケモン達を加えてみては。ポケモンカード散華版。俗世の欲に塗れた者が、要らぬ提案をしてしまいました。合掌。

